



『もしも虫と話せたら  
昆虫が教えてくれた生きづらい世の中を  
生き抜く自然の鉄則15』

じゅえき太郎／絵 バズル／文 須田研司／監修  
プレジデント社

職場の人間関係がうまくいかず、生き方に悩む太郎くんが「生き物としての先輩」である昆虫たちから「自然の鉄則」を学びます。もしも虫と話せたら、彼らはどんなことを教えてくれるでしょうか。



『なぜ僕らは働くのか  
君が幸せになるために  
考えてほしい大切なこと』

池上彰／監修  
学研プラス

僕らは人生の大半を働いて過ごす。でもそれはあまりに漠然としている。「何をしたらいいかわからない」から「これをしてほしい」になるための本。



『いつでも君のそばにいる  
葉っぱ切り絵コレクション  
小さなちいさな優しい世界』

リト@葉っぱ切り絵／著  
講談社

ちょっとだけ現実を離れて、小さな優しい世界を旅してみませんか？ 見ていると想像がふくらんで、物語の中に入り込んだような気分になれる作品の数々。心がほっこりするアート本です。



『ヘンテコ城めぐり』

長谷川ヨシテル／著  
柏書房

お城と聞いて何をイメージしますか？大河ドラマ？ 観光スポット？ ひっそり城址として残るものから人気の世界遺産まで、その形はさまざまです。ゆる〜くお城の世界をご案内します。

シリーズ 『キテレツ城あるき』



『ワタシゴト  
14歳のひろしま』

中澤晶子／作 ささめやゆき／え  
汐文社

修学旅行で訪れた資料館で原爆の遺品を目の当たりにした中学生たち。展示品の向こう側にある、当時の人々の想いや街の姿を肌で感じる内に、やがて、自分の悩みや家族関係にも思いをはせて……。



『オンザカムアップ  
いま、這いあがるとき』

アンジー・トーマス／作  
服部理佳／訳  
岩崎書店

プリの身近には銃、ドラッグ、ギャング、そして人種差別。そんな環境をプリはヒップホップで乗り越えていこうとするが、彼女の才能に目をつけ巻き込もうとする大人達が現れて……。



『少年少女のための  
ミステリー超入門』

芦辺拓／著  
岩崎書店

それぞれの作品の魅力だけでなく、ミステリーというジャンルがどのように発展してきたかまでわかるガイドブックです。ミステリー初心者にも、既にミステリーが好きで読んでいる人にもおすすめ！



『わたしの外国語漂流記  
未知なる言葉と格闘した25人の物語』

河出書房新社／編  
河出書房新社

言葉を学ぶとはなにか。それは伝えたい思いを結ぶこと。新しい世界を開くこと。それは命を救うことも……。



『雲を紡ぐ』

伊吹有喜／著  
文藝春秋

高校生の美緒は、学校でいじめにあい不登校になった。両親ともうまくいかず、工房を営む祖父のもとへ家出する。家族であっても言いたいことが言えない、うまく伝わらない、不器用な家族の物語。



『秘密をもてないわたし』

ペニー・ジョエルソン／著 河井直子／訳  
KADOKAWA

脳性まひのジェマは、体を動かさず話すこともできない。見えるし、聞こえるし、考えているけれど、それを伝える術がない。自分しか知らないあいつの正体を、どうすればみんなに教えられる？



『コンピュータ、どうやって  
つくったんですか？  
はじめて学ぶ コンピュータの歴史としくみ』

川添愛／著  
東京書籍

昔の人間世界をお手本に作った世界からやってきた妖精が尋ねています。さあ、何て答えますか？ えー？ と思っても大丈夫、この本でその仕組みが理解できます。超文系の人にこそおすすめ！



『ぼくだけの  
ぶちまけ日記』

スーザン・ニールセン／作  
長友恵子／訳  
岩波書店

兄が銃で殺人事件を起こし、自らも命を絶った。被害者はぼくの親友の家族だった。加害者の弟ヘンリーは、自分の気持ちを日記にぶちまけながら、新しいご近所さんや友達と、少しずつ前を向く。